

指 標	単 位	基準値 ※1	実績値							現計画中間目標値 (2020年度)	中間目標に対する評価(2022年度)			目標値(案) (2025年度)	考 え 方 (※2019年度数値を現状値とする。)
			2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		達成状況(※2)	理由等	今後		
①観光消費額	億円	141	-	166	197	158	161	79	67	206	▼	2017年は、「国宝・彦根城築城410年祭」の開催により観光入込客数が増加し、更には消費単価も増加したことにより観光消費額が増加したが、2018年以降はイベントの反動減や天候不順の影響もあり、観光入込客数や消費単価が減少したことに加え、2020年以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、中間目標値を下回る結果となっている。	本市の観光入込客数、特に消費単価の高い宿泊観光客数を増やす必要がある。また、観光客の消費単価を高めることが必要であり、高単価で魅力的のあるコンテンツの達成を行うなど、観光消費を促す仕掛けが必要である。	206	現状値および今後の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中間目標値を据え置く。 ※「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合。2024(令和6)年に200億円。
②経済波及効果	億円	266	-	313	362	294	296	147	88	400	▼	2017年度の「国宝・彦根城築城410年祭」の開催により、観光入込客数および消費単価が増加し、観光消費額が増加した結果、経済波及効果も大きくなったが、その後は観光消費額の減少や域内調達率の減、更に2020年以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中間目標値を下回る結果となっている。	上記のとおり、観光消費額を増加させることに加え、域内調達率を上げる必要がある。域内調達率については、啓発に加え、地産地消を促すための仕掛け(例えば地域特産品の開発や地元農家と市内飲食店と連携したイベントの実施するなど)が必要。	—	現状値および今後の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中間目標値を据え置く。
③彦根城入山者数(日本人)	人	718,857	763,769	758,365	805,373	690,884	727,139	367,300	378,846	800,000	▼	2017年度の「国宝・彦根城築城410年祭」の開催により、中間目標値である80万人を達成したものの、翌年以降は、イベントの反動減や天候不順の影響もあり、更に2020年以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中間目標値を下回る結果となっている。	彦根城の世界遺産登録や国内で開催される大規模イベントを契機として、彦根城への入込を増加することが期待できる一方、現在でも新型コロナウイルス感染症の感染の波が周期的に訪れており、入込客数の増減を繰り返す可能性がある。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、国内旅行へのシフトやマイクロツーリズムの広がりが進んでいることから、これをチャンスに変え、国内観光客の取り込みを積極的に行う必要がある。	800,000	現状値および今後の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中間目標値を据え置く。
④彦根城入山者数(外国人)	人	19,743	22,431	27,035	30,927	35,716	39,561	6,206	1,836	100,000	▼	国内の訪日外国人観光客の増加に伴い、彦根城についても毎年堅調に観光客が増加していたものの、2020年以降は新型コロナウイルスが世界的に大流行し、入国制限措置等の水際対策が実施されたことにより、中間目標値を下回る結果となっている。	案内板や情報発信ツールの多言語化、Wi-Fi環境、ユニバーサルデザインに対応した施設整備など、引き続き受入環境整備を行い、リピーター獲得も視野に入れた訪日外国人観光客のおもてなしを図る必要がある。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日本国内への入国制限措置が取られていたところだが、2022年10月より大幅に緩和され、更には昨今の円安基調も追い風となっており、現在は訪日外国人観光客数の回復が期待できる。一方で、国際的なマクロ経済状況は楽観視できるものではなく、物価や燃料費の高騰等も影響し、今後の訪日需要が変動するリスクもある。東アジア-東南アジア-豪米-欧といったように段階的な回復も想定されるので、回復状況に合わせ、ターゲットを絞り誘客していく必要がある。	60,000	現状値および今後の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて設定。「文化観光推進地域計画」との整合を取り、令和元年度の約1.5倍とする。 ※「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合。2024(令和6)年に外国人観光客数(日帰り、宿泊)10万人。 ※「文化観光推進地域計画」の考え方は、10年後(令和12年)に令和元年度の2倍程度まで引き上げ。
⑤夢京橋キャスルロード歩行者数/日	人	1,130	1,513	1,379	1,576	1,107	2,320	-	-	1,480	-	2019年度は、基準年の実績値から増加し、目標値を上回る結果となったが、過去5年間の推移をみると1,500人/日を中心に増減している。 なお、夢京橋あかり館の来場者数は、2014年が79,300人で、2019年は90,200人となっており、約10,000人の増加となっている。	観光客の滞在時間の延伸を図るためには、街なかへの回遊は必要不可欠であり、引き続き、街なかへの誘客の仕掛けを展開する必要がある。	-	目標値削除 ※本評価については、彦根市および彦根商工会議所により中心市街地活性化に向けた基礎データとして収集していたが、令和元年をもって一旦調査を終了したため、本計画の指標から削除する。
⑥四番町スクエア歩行者数/日	人	289	346	198	238	186	470	-	-	360	-	2019年度は、基準年の実績値から増加し、目標値を上回る結果となったが、過去5年間の推移をみると300人/日を中心に増減している。 なお、四番町スクエアにある四番町ダイニングの来場者数は、2015年が60,300人で、2019年は35,500人となっており、来場者が減少している。	観光客の滞在時間の延伸を図るためには、街なかへの回遊は必要不可欠であり、引き続き、街なかへの誘客の仕掛けを展開する必要がある。	-	目標値削除 ※本評価については、彦根市および彦根商工会議所により中心市街地活性化に向けた基礎データとして収集していたが、令和元年をもって一旦調査を終了したため、本計画の指標から削除する。
⑦彦根港観光利用者数	人	83,200	83,600	59,700	81,300	76,200	75,100	27,500	21,531	95,000	▼	近年は、台風など天候不順の影響により利用者数が減少し、更に2020年以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、基準年の実績値を下回る結果となった。	多景島・竹生島と彦根城が連携した1日乗船券の発行による回遊促進を図るとともに、利用促進に繋がるキャンペーンやイベント船、レンタサイクルめぐりんこなどとの連携事業の実施、効果的なプロモーションを行うこと等により、利用者の増加ひいては市内観光の滞在時間の延伸に繋がることが期待できる。	95,000	現状値および今後の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、中間目標値を据え置く。
⑧市内宿泊者数(日本人)	人	305,107	341,730	369,294	385,778	428,788	436,177	319,703	263,328	355,000	▼	夜のライトアップ事業など、夜型観光を促進する事業の実施や宿泊施設、床数の増などにより、宿泊客が増加傾向にあったが、2020年以降は新型コロナウイルスの感染拡大により大幅に減少し、中間目標値を下回る結果となっている。	閑散期はもとより、春・秋の観光シーズンでの宿泊者数はまだまだ増やせる余地があるため、夜のライトアップ事業の充実や彦根城、城下町、琵琶湖などを活かした周遊観光の仕掛けを実施し、観光客の滞在時間の延伸を図り、宿泊観光に繋げていく必要がある。	457,000	現状値および今後の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて設定。「文化観光推進地域計画」との整合を図る。
⑨市内宿泊者数(外国人)	人	7,093	34,670	41,306	27,622	28,012	22,823	4,297	158	90,000	▼	近隣都市の宿泊施設が飽和し、周辺地域に宿泊する観光客が増える傾向にあり、本市においても2015、2016年と増加したが、その後は、中国の団体観光客の減少、更に2020年以降は新型コロナウイルスが世界的に大流行し、入国制限措置等の水際対策が実施されたことにより、中間目標値を下回る結果となっている。	これまで、欧米と台湾の個人・グループ客を暫定のターゲットとしていたが、これまでの状況を鑑み、台湾をはじめとする東アジア、フランスやスペインをはじめとする欧米系の個人客をターゲットとして、更にはアラブ諸国からの訪日も促すべく、プロモーションを行う。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日本国内への入国制限措置が取られていたところだが、2022年10月より大幅に緩和され、更には昨今の円安基調も追い風となっており、現在は訪日外国人観光客数の回復が期待できる。一方で、国際的なマクロ経済状況は楽観視できるものではなく、物価や燃料費の高騰等も影響し、今後の訪日需要が変動するリスクもある。東アジア-東南アジア-豪米-欧といったように段階的な回復も想定されるので、回復状況に合わせ、ターゲットを絞り誘客していく必要がある。	40,000	現状値および今後の新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて設定。「文化観光推進地域計画」との整合を図る。
⑩飲食店数	店	506	-	528	-	-	-	-	-	530	-	「経済センサス-活動調査(総務省統計局)」より。	飲食店への誘導を促す仕掛けづくり(地域ブランドの開発や三成めしなどのストーリー性のあるメニューの開発など)が必要である。	-	目標値削除 ※目標値として設定せず、参考指標としての把握のみとする。
⑪宿泊施設・床数	部屋	1,339	1,443	1,443	1,443	1,615	1,615	1,615	1,615	1,520	-	新規開業により増加。	新規開業(計画)が数件あり、増加が見込まれる一方、新型コロナウイルス感染症の影響による施設の閉鎖の懸念がある。	-	目標値削除 ※目標値として設定せず、参考指標としての把握のみとする。

※1 ①、②は2013(平成25)年数値、③～⑨は2014(平成26)年数値、⑩は彦根市統計書(平成26年度版)数値(平成24年2月1日時点の数値)、⑪は2014(平成26)年度数値

※2 ○：達成したもの △：基準年よりは増加したが未達成なもの ▼：未達成かつ基準年よりも減少したもの

【追加項目(案)】

指 標	単 位	基準値 ※3	実績値							現計画中間目標値 (2020年度)	中間目標に対する評価			目標値(案) (2025年度)	備 考
			2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		達成状況	理由	今後		
⑫観光客満足度(日本人)	-	5.78	-	5.73	5.78	5.71	5.78	6.07	5.78	-	-	-	-	6.00	目標値新設 ※彦根市観光客満足度調査((一社)近江ツーリズムボード)より ※最大値7.00
⑬観光客満足度(外国人)	-	6.48	-	-	6.16	6.09	6.48	-	-	-	-	-	-	6.70	目標値新設 ※彦根市観光客満足度調査((一社)近江ツーリズムボード)より ※最大値7.00
⑭市内観光入込客数	人	3,152,800	3,210,720	3,258,700	3,417,600	3,073,300	3,152,800	1,454,600	1,542,521	-	-	-	-	3,760,000	目標値新設 ※滋賀県観光入込客統計調査より
⑮市民満足度(観光都市としてのおもてなし環境の現状についての市民満足度)	%	17.8	-	-	-	17.8	-	-	-	-	-	-	-	28.0	目標値新設 ※彦根市都市再生整備計画策定にかかるアンケート調査より

※3 ⑫～⑭は2019(令和元)年数値、⑮は2018(平成30)年度数値